

令和3年度 学校関係者評価 自己評価結果との対応関係報告書

重点目標

1. 入学者の年内定員充足、2. 国家試験合格率 90%以上
3. 退学者の減少（退学率 5%）、4. IT 分野をカリキュラムに盛り込む検討を行う

(1) 教育理念・目標 【3.42/4.0】

評価項目	平均
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか)	3.62
② 学校における職業教育その他の教育指導等の特色は適切か。	3.55
③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3.41
④ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか。	3.10
⑤ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	3.41

〔大項目の詳細〕

教育理念、教育目標は、ホームページで公開し、入学後に配布される学生生活ガイドブックにも記載され、新入生ガイダンスにて説明されている。「地域医療への貢献」という教育理念のもと、教育目標は、「1.『謙虚な気持ち』と『感謝の心』を育てる。2. 助け合いやチームワークを基本とした医療福祉の精神を育てる。3. 医療人に必要な体力を養い、自立と忍耐を身につける。」を掲げている。

また、石田理事長・学院長は、入学式での挨拶において、「学生生活を送るうえでの3つの心得」を述べている。これは、教育目標をわかりやすく学生に伝えているものであり、「1. 常に『謙虚な気持ち』と『感謝の心』を持って行動する。2. いつでもきちんとした挨拶をする。3. 在学中は、努力と辛抱の期間とする。」としている。この3つの心得も、ホームページで公開し、学生生活ガイドブックにも記載されている。また、学科ごとに目標を立て、その目標を基にカリキュラム編成を行っている。

令和3年は令和2年に引き続き、コロナ禍で対面でのやり取りが少なくなっており、影響が危惧されている。その中でも、年度初めに実施する学生ガイダンスや保護者説明会は、教育理念や教育目標を周知する機会になっており、新型コロナウイルス感染対策を教員と学生で協力して実施する過程で衛生面の意識も高まっている。

評価基準1：教育理念・目標

適切である

コメント

貴学で挙げられている教育理念・目標設定は、医療福祉に携わる人材を育てるものとして適切である。しっかりと定められ、ガイダンスや保護者説明会、ホームページにて公開され、学生や保護者への

周知・理解もされている。謙虚な気持ち・感謝の気持ちは実際に就職し、患者様と接することを考えれば当然必要なことであり、在学中に浸透することを望む。

コロナ禍での対応が3年目になるので、コロナ禍でも伝える工夫をして頂きたい。医療人に必要な体力を養い、自立と忍耐を身につける上で、時代の変化やコロナ禍の環境変化にも柔軟に対応できる取り組みを期待したい。

(2) 学校運営 【3.30/4.0】

評価項目	平均
① 目的等に沿った指導方針が策定されているか。	3.48
② 指導方針に沿った事業計画が策定されているか。	3.45
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか。	3.24
④ 就業、給与に関する規程等は整備されているか。	3.14
⑤ 教務・事務等の組織整備等意思決定システムは整備されているか。	3.00
⑥ 業界や地域社会等に対する法令遵守がなされているか。	3.55
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	3.55
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	2.97

〔大項目の詳細〕

教育目標に沿った分野別指導方針（学業指導、個人適性指導、社会性指導、健康安全指導、進路指導）は、ホームページで公開し、入学後に配布される学生生活ガイドブックにも記載されている。令和元年度に学校法人化されてから情報公開が成されている。

学校の運営組織は系統化されており、学校法人理事会・評議委員会、広報委員会、学生生活向上委員会、就職委員会、同窓会委員会、ITに関する情報システム委員会、学校評価委員会、教育課程編成委員会、教職員の質向上を促す『和敬清寂』委員会に分かれて運営されている。また、月ごとに教務事務連絡会議、学科長委員長会議、学科会議を行い、教職員の意志統一・意思決定を行っている。

年度初めには、教職員向けに昨年度の結果と本年度の目標を発表する業務報告会を設けている。また、医療法人社団和風会の業務報告会にも参加しており、本校の収支報告、事業計画を発表する機会もある。学校評価においても、自己評価、学校関係者評価、第三者評価（一般社団法人リハビリテーション教育評価機構）を行い、法令遵守に努めている。

就業規則等も整備されているが、紙媒体で全職員への配布が成されておらず、上長への確認が必須になっている。いつでも誰でも気軽に就業規則が確認できる検討が必要である。一方、仕事の進め方は、コロナ禍によって情報システムによる業務が急速に発展・変化している。インターネット上のスプレッドシートを活用し、紙を減らすなどSDGs（エスディーゼーズ、持続可能な開発目標）にも取り組んでいるため、今後の検討が課題である。現在、Wi-Fi設備等の整備も行っており、ICT化を図っている。

評価基準 2：学校運営

□ 適切である

コメント

学校運営については、法令遵守され、指導方針、事業計画に沿って適切に運営されている。学生に対する対応や事例からも適切な運営であると判断する。就業規則については、一般的に事業所の従業員の身近に据え置き、いつでも見れるようにする方が良い。

運営組織は系統化されているが、さらに積極的に教員・学生・外部委員が関わり、一緒に作り上げていると実感できる運営に期待する。

コロナ禍で IT 等を活用した ICT 化は必須であり、業務効率を考慮された取り組みも評価できる。一方で、環境が整備されてきているにもかかわらず、情報システム化による業務の効率化が、すべての教職員に浸透していないことも考えられる。今後も Wi-Fi 環境等の整備を進め、情報システムの効率化を図ることを期待したい。

(3) 教育活動 【3.32/4.0】

評価項目	平均
① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	3.34
② 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	3.45
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	3.31
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。	3.14
⑤ 関連分野の施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	3.34
⑥ 関連分野における実践的な職業教育（見学実習・評価実習・総合臨床実習等）が体系的に位置づけられているか。	3.62
⑦ 授業評価の実施・評価体制はあるか。	3.38
⑧ 職業教育等に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	3.21
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	3.59
⑩ 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3.55
⑪ 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	3.14
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（専任・非常勤含む）を確保する等マネジメントが行われているか。	3.24
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取り組みが行われているか。	3.14
⑭ 職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3.07

[大項目の詳細]

学科ごとの教育課程（カリキュラム）ならびにディプロマ・ポリシー（卒業までに身につけるべき能力）、学年ごとの到達目標は、ホームページ上で公開され、年度ごとに配布されるシラバスにも記載され、ガイダンス時に説明している。

職能団体である理学療法士協会・作業療法士協会・言語聴覚士協会等が主催する教員協議会等に積極的に参加し、学院内での情報共有、協会が意図するカリキュラム変更に合わせた内容の作成や見直しを行っている。教育課程編成委員会も開催し、病院のリハビリテーション責任者の意見も取り入れている。外部講師（PT・OT・ST）の起用も協力体制が出来ている。

学生に対しては、前期・後期定期試験終了後に、授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を各授業担当者へフィードバックしている。授業の質の向上に繋げるため、評価内容については今後の検討課題とする。

専任教員は、関連法人の病院・施設で働くリハビリ職の教育プログラム実施の一環を担い、実習施設の中核作りも行っている。PTOT 指定規則が変わり、臨床実習指導者講習会の修了者が臨床実習指導を行うことになった。そのため、教員も積極的にその講習会を受講し、各協会連携のもとに研修会を主催している。学校内でも研修や伝達講習が定期的に行なっている。日本大学医学部での解剖実習見学を年 3 回実施している。その関係から 2022 年は PTOT 教員各 1 名を客員研究員として月 2 回程度送り出すことになっている。

評価基準 3：教育活動

適切である

コメント

学科ごとの教育課程等もしっかり説明出来ている。授業評価アンケートの取り組みも評価できる。臨床心理士の資格を持つカウンセラーが、常に学生相談として対応できるように準備がなされている。また、ご意見箱を設置し、学生から出た意見に対して一つ一つきちんと対応がなされている。クリニカル・クラークシップの導入に伴い、OSCE 等の臨床能力を強化して頂きたい。コロナ感染対策を踏まえた指導がなされているが、継続しての取り組みが必要である。

(4) 学生指導等 【3.48/4.0】

評価項目	平均
① 基本的な生活習慣の確立のため取り組みが行われているか。	3.28
② 学生の安全管理のための取り組み等（傷害保険、カウンセリング、発達障がいのある学生等への支援等）が行われているか。	3.55
③ 学生・保護者からの相談体制が整備されているか。	3.48
④ 進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか。	3.62

[大項目の詳細]

基本的な生活習慣の確立のため、学生の遅刻・欠席時の報告書の提出を義務づけており、状況に応じ随時面談を実施している。また、コロナ禍での指導として、登校前に検温を行いGoogleフォームで報告を課している。学生の生活指導（校内風紀）やイレギュラーな問題に関しては、教職員で考え方やモラルが異なり、各学科・学年で対応にばらつきが生じている。

学生の安全管理のため、臨床心理士／公認心理師の資格を持つ心理カウンセラーが常勤で対応できる環境である。そのため、退学率の減少につながっていると思われる。在校生だけでなく、卒業生のカウンセリングの受入れも行っている。

教員のメールアドレスは、学生は勿論、保護者へも開示しており、相談できる環境である。また出席状況が不良の学生や成績不良の学生には、学生の了承を得たうえで保護者に連絡をして状況の説明を行い、相談を行ないやすい環境を整えている。ご意見箱の設置もあり、学科担任だけでなく、相談する道筋は整備されている。

評価基準4：学生指導等

適切である

コメント

教員のメールアドレスは、学生だけでなく保護者にも開示しており、常に指導・相談できる環境にある。随時、学生への個別面談や意見箱の設置により、生徒が悩みを打ち明ける手段が複数あることは評価できる。またカウンセリングの受け入れなども時代に沿った対応で評価できる。学生指導全般について、丁寧に対応が出来ている。一方、継続して面談やカウンセリングは必要である。

今後も安心安全な学内生活を送るために、学生の精神的ケアが重要になる。学生への相談には積極的に対応が出来ているが、解決できない課題に対してどのように対応するのか、検討が必要である。

コロナ禍でのオンライン授業の影響で、学生の理解度に差が生じないか不安を感じている。きめ細かい対応が、退学率の減少や国家試験合格率アップに繋がると思われる。

(5) 特別活動等 【2.53/4.0】

評価項目	平均
① クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか。	2.55
② スポーツ大会、文化祭等を推進しているか。	2.52

[大項目の詳細]

令和3年は、令和2年に引き続きコロナ禍のため、クラブ活動等の特別活動の奨励ができなかった。また、恒例行事となっていた新入生対象親睦会・合宿、球技大会、タマリハ博覧会、3学科合同症例報告会等は中止せざるを得なくなった。

感染対策を実施しながら、飲食や大声を伴わないマナー講座、悪徳犯罪被害防止講座、年金講座、AED演習、最終学年に対する租税講座（所得税、確定申告など）は開催することができた。

評価基準 5：特別活動等

概ね適切である

コメント

コロナ禍で活動が制限されているが、オンラインを用いて、マナー研修等のさまざまな講座を開催しており、特別活動も怠ることなく実施されている。

コロナ禍ではあるが、必要な感染対策やオンラインでの取組を強化し、学内交流を深めるためにもクラブ活動の奨励やスポーツ大会など恒例行事もぜひ行って頂きたい。

(6) 学修成果 【3.33/4.0】

評価項目	平均
① 就職率の向上が図られているか。	3.55
② 資格取得率の向上が図られているか。	3.62
③ 退学率の低減が図られているか。	3.41
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	3.10
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	2.97

〔大項目の詳細〕

就職支援として、最終学年を対象に就職活動講座を開催している。マナー講座、履歴書の書き方指導、模擬面接などを行っている。求人情報は、集約されファイリングされているため、常に閲覧することが可能である。令和3年は、就職委員会が主導し、実習施設を中心に求人募集動画の視聴やZoomを活用したオンライン説明会を行った。母体の医療法人社団和風会からは法人リハビリテーション部長に学校に来て頂き、直接学生に就職の働きかけを行った。

2021年2月に行われた国家試験合格率は、作業療法学科が71.4%（全国合格率81.3%）、理学療法学科が87.9%（全国合格率79%）、言語聴覚学科が81.3%（全国合格率69.4%）となった。作業療法学科は2020年2月の結果は100%で、9年連続で全国合格率を上回っていたが残念な結果となった。理学療法学科は5年連続で全国合格率を上回る結果となった。言語聴覚学科は2020年に下回ったが、再び全国合格率を上回った。

令和2年度（2021年3月）は、目標としていた退学者の減少、退学率5%以下を達成した。コロナ禍の中、オンライン等を含む細やかな対応の成果だと考えている。生活指導と退学率低減という目標との間で葛藤している教員も存在している。教職員間でキャリア教育の必要性の認識を高める必要がある。

評価基準 6：学修成果

適切である

コメント

対面授業ができない時期もあったコロナ禍にもかかわらず、国家試験合格率が全国平均を上回って

いることは評価できる。毎年、常に3学科とも合格率が全国平均を上回れば申し分ない。

コロナ禍により学外実習の受け入れが難しくなり、学内実習に切り替えるケースは理解できるが、できるだけ一人でも多くの学生が、学外での実習を体験できるように手配してほしい。国家試験は学生のモチベーションがとても大切になるため、その意味でも学外での実習を体験し、専門職としての自覚を高めて学習に励むように指導して頂きたい。

また、退学率5%以下の目標を掲げて、様々な教育指導、環境改善に取り組んでいることは評価できる。退学率の減少は全てにおいて良い結果に連動すると思われる。退学者数を減らすためには、教職員のキャリア教育が必要である。留年や退学への対策を、さらに強化して頂きたい。

(7) 学生支援 【3.18/4.0】

評価項目	平均
① 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	3.55
② 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3.34
③ 課外活動に対する支援体制は整備されているか。	2.83
④ 学生の生活環境への支援は行われているか。	3.03
⑤ 保護者と適切に連携しているか。	3.24
⑥ 卒業生への支援体制はあるか。	3.31
⑦ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3.14
⑧ 高等学校・大学等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。	3.00

[大項目の詳細]

学生への奨学金は、日本学生支援機構、東京都私学財団等の奨学金がある。また、高等教育の就学資金新制度（高等教育無償化）では、授業料等減免費用の支弁の対象校となっている。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、経済的困難な状況に陥っている学生が学びを継続できるよう支援する「学生支援緊急給付金給付事業」の申請も行い、複数名の学生が支給された。

入試制度においては、入学金免除特別入試、学費後納制度、有資格者割引、兄弟姉妹・子女入学金減額制度などの減額制度の実施を行っている。

学生生活を有意義に送るために自動販売機やホットウォーターディスペンサーの設置、外部キッチンカーの敷地内乗り入れ、インターネット環境整備、学生からの意見を入れる投書箱の設置を行っている。

卒業生への支援は、校友会（卒業生と教職員でつくる会）の企画で、研修会・勉強会を計画し、実施したものと新型コロナウイルス感染症対策で実施できないものがあつた。

評価基準7：学生支援

適切である

コメント

様々な学生支援の制度があり非常に評価できる。入学時の支援制度もさまざまな工夫がなされてい

る。経済的困難な状況に陥っている学生に対して、学びを継続できる修学支援体制が整っている。
 学生からの意見を取り入れるための意見箱をきちんと活用し、学生の声に対応している。
 インターネット環境も新たに整えており、学習のための環境が備わった。
 今後も金銭的に進学が困難な学生のため、助成金等の積極的な取り組みの強化を期待したい。

(8) 教育環境 【3.18/4.0】

評価項目	平均
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3.03
② 実習施設について十分な教育体制を整備しているか。	3.28
③ 防災に対する体制は整備されているか。	3.24

[大項目の詳細]

普通教室には教室前方と中央に 2 台の大型ディスプレイを設置している。PTOT 指定規則変更に伴う教育環境整備事業を引き続き行った。作業療法実習室 3 の整備事業では調理台 7 台・冷蔵庫・洗濯機・鍋一式・炊飯器の整備、移動移乗動作訓練整備一式の事業では 3 モーター式ベッド 8 台、車椅子 8 台、キャスター付リフト 1 台の整備、肺機能測定装置一式の事業では呼気ガス分析装置 1 台・オートスパイロメーター 2 台等の整備を行った。また、令和 4 年度に開設する介護福祉学科の特別教室の改修工事を行った。

防災に対する体制は、毎年、教職員でも防災訓練を実施し避難経路や通報等の確認を行っている。ヘルメット、非常食・水などを常備し、防犯用品なども揃えている。

評価基準 8：教育環境

適切である

コメント

コロナ感染対策をはじめ、インターネット環境もきちんと整備がなされている。
 学生からの相談が対面やメールだけでなく、オンラインによる相談も気兼ねなく教員と実施できるような環境が整うと尚良い。
 防災面も含め、概ね環境は整っている。今後も時代変化に伴う環境整備に期待している。

(9) 学生の受入れ募集 【3.59/4.0】

評価項目	平均
① 学生募集活動は、適正に行われているか。	3.62
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3.48
③ 入学金・授業料等の学納金は妥当なものとなっているか。	3.66

[大項目の詳細]

学生募集活動は、高等学校や大学からの指定校推薦入試、推薦入試、AO入試、一般入試を行っている。入試時期の前には必ず実績のある高等学校の進路指導室、大学のキャリアセンターへ訪問し、募集要項の説明を行っている。業者を介した高等学校での専門学校説明会へ出向し学校説明や模擬授業を行っている。また、多摩地区の高等学校進路指導の教員を対象とした多摩地区専修学校協議会の学校報告会に参加することができた。さらに多摩地区高等学校進路指導連絡会と連携し、進路指導教員の学校見学会を行うことができた。

体験会は、感染症対策（検温、消毒、アクリル板など）を行いながら、在校生の協力も仰ぎながら行っている。職種の特徴を生かした模擬授業や、教員や在校生との相談コーナーを設けている。また、各学科とも個別見学会にも対応し、言語聴覚学科では、社会人ニーズから夜間時間帯での講座を行った。

入学金・授業料は、近隣の養成校と比較しても適切なものとなっている。

評価基準9：学生募集

概ね適切である

コメント

学生募集活動や入試方法、営業活動も含め適切に実施出来ている。学納金減免制度など学費の援助が充実しており、幅広く門戸を開いている。SNSへの積極的な取り組みを含めホームページも見やすくなっている。外国人への配慮もさらに強化して頂きたい。

理学療法学科、作業療法学科は募集定員を満たしており評価できる。個別見学会や体験会など募集に対して前向きな姿勢が感じられる。

言語聴覚学科、介護福祉学科については、体験会以外の募集活動を検討していく必要がある。職種の特徴を生かした模擬授業を遠隔で行うことにチャレンジしてほしい。今後も引き続き言語聴覚学科や介護福祉学科の定員充足に努めて頂きたい。

(10) 財務 【3.18/4.0】

評価項目	平均
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	3.03
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	3.13
③ 財務について会計監査が適正に行われているか。	3.33
④ 財務情報公開の体制整備はできているか。	3.23

[大項目の詳細]

会計年度の財務諸表は、ホームページ上で情報公開され、監査役の見解や署名も情報公開されている。理事会・評議員会では、会計事務所の担当者から財務諸表（収支報告、予算）の説明があり、適切な財務体制で運営されている。ただし、理事・評議員以外の職員に対しては、詳細な説明会がないため、各自で情報公開された財務諸表を読み取るしかない。財務基盤が安定しているか否かは不明確な捉え方となっ

ている。

評価基準 10：財務

適切である

コメント

会計年度の財務諸表は、ホームページで情報公開され、適切な財務体制で運営されている。監査役の意見も公開されており、会計監査が適正に行われている。収支を確認すると予算書より適切であると判断できる。

職員全員が財務状況を把握するよう働きかける必要がある。事業活動収支等の見える化を含め、職員の意識強化に期待する。

(11) 法令等の遵守 【3.6／4.0】

評価項目	平均
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.76
② 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3.45

[大項目の詳細]

法令および専修学校の設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。基準や申請で求められている情報はホームページ上で公開している。

個人情報保護に関しては、入学試験結果等の個人情報資料をシュレッダーすることを徹底し、病院・施設での実習の際に実習指導者向けに作成する個人プロフィールを実習終了後に確実に回収することを行っている。また、学生には、各職種に課せられている守秘義務の重要性を教育し、実習前には再度、デシリノートやデータの取り扱い、匿名での記載方法の徹底を指導している。

評価基準 11：法令等の遵守

適切である

コメント

法令順守基準の公表や個人情報の適切な管理、方針の公開など適切に行えている。コンプライアンスを重視しており、適切であると判断する。

IT化に伴い、さらなる個人情報等のシステム強化に期待する。

(12) 社会貢献・地域貢献 【3.26／4.0】

評価項目	平均
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3.41
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	2.86
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。	3.52

〔大項目の詳細〕

地域の社会福祉協議会や自治体が主催する転倒予防講座、認知症予防講座、口腔ケア講座を積極的に受託している。また、東京都立羽村特別支援学校、東京都立多摩桜の丘学園にて外部専門家（教育支援員）の役割を作業療法士、理学療法士、言語聴覚士として、それぞれの教員が担っている。

理学療法学科・作業療法学科では、指定規則変更のため臨床実習指導者は厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会を受講し、その修了証が必要となった。本校のPT・OT学科でも東京都理学療法士協会・東京都作業療法士会と連携し、その講習会を開催した。

令和3年は、新型コロナウイルス感染症のワクチン職域接種を行った。学校を会場とし、医療法人社団和風会多摩リハビリテーション病院の医師・看護師の協力を得て行うことができた。1,000名枠に対して、本校の学生と保護者300名程度であったため、近隣の青梅慶友病院、青梅市商工会と連携して複数の会社の職員や家族へのワクチン接種を行った。コロナ禍で学校施設の貸出しを制限せざるを得なかったが、OT2年生の青梅市役所で行う市民講座『いきいき健康講座』を開催することができた。介護福祉学科においても通信講座を含め本校を会場とした介護職員初任者研修・実務者研修を行った。

評価基準12：社会貢献・地域貢献

概ね適切である

コメント

新型コロナワクチンの職域接種を行うなどの地域の要望に合わせた地域貢献は非常に評価できる。学校を会場として実施したことに加え、近隣の病院・施設・商工会とも連携し、ワクチン接種を広げていた。

地域包括支援事業、社会教育事業など貴学教員の積極的な地域への働きかけがなされている。

毎年行っている介護福祉士初任者研修や介護福祉士実務者研修について、対面授業の夜間の実施等、就労者が授業を受けやすい時間帯を検討して頂きたい。コロナ禍での活動場面の縮小は残念であるが、SNS等の利用による柔軟な活動も模索して頂きたい。今後も必要に応じた貢献に期待する。